

7月15日（火）SSH「株式会社 常磐植物化学研究所講座」が、株式会社常磐植物化学研究所にて開催されました。当日は、1年生20名（男子13名、女子7名）が参加し、午後2時から約3時間の講座を受講しました。今回の講座では、「植物からの恵みをいかそう！」をテーマに、化学合成という人工的な手法ではなく、植物からの恵みを受けるという考えをもとに、私たちにとって有用な化学成分を植物から取り出すことの意義や有用成分の分離・精製の原理と手法を講義と実習を通して学びました。

実習では、人類が初めて手にした薬草のうちもっとも歴史が古いとされ、現在も繁用されているカンゾウ（甘草）の主成分であるグリチルリチン酸を甘草エキスをから分離するため、薄層クロマトグラフィー法により展開分離し、紫外線ランプ下で確認しました。

また、ショ糖（砂糖）の約50倍もの甘味をもつとされるグリチルリチン酸の甘味を、4%ショ糖（砂糖）水溶液と0.4%グリチルリチン酸水溶液で実際に比較したり、加工前の甘草の甘味をサトウキビを噛むようにして甘味体験もしました。

ハーブ園研修では、実際にハーブの香りをかいだり、味を見たりしながら、担当の方から説明を受け、その後、代表的なハーブについてクイズ形式での発表会を行いました。

施設見学では、各部門の担当の方から説明を受け、実験室規模の研究から製品として完成していく一連の流れを学ぶ事ができました。

午後の半日の講座でしたが、室内での実験、屋外でのハーブ園研修など、五感を大いに刺激される充実した研修でした。講座を担当していただきました株式会社常磐植物化学研究所の方々には感謝いたします。



会長の立崎隆氏より激励



スタッフ紹介







甘味体験の様子



甘草（カンゾウ）



実習の様子



施設見学の様子



ハーブ園にて



講師の先生方との記念撮影